

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4674000130号
法人名	医療法人 杏 政 会
事業所名	グループホーム つ る
訪問調査日	平成 22 年 3 月 15 日
評価確定日	平成 22 年 4 月 23 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4674000130号		
法人名	医療法人 杏政会		
事業所名	グループホーム つる		
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町鶴田2693番地 (電話) 0996-59-2000		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成22年3月15日	評価確定日	平成22年4月23日

## 【情報提供票より】 (22年3月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年3月27日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人	非常勤3人 常勤換算7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 鉄筋 造り		
	2 階建ての		1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	家賃(管理料)に含まれる
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	180 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		780 円

### (4) 利用者の概要 (3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.4 歳	最低	59 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鶴田中央病院	たきかわ歯科医院
---------	--------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、母体医療機関と隣接し、周囲は田園に囲まれて住宅や商店が点在しており、利用者に馴染み深い環境の中に立地している。職員は、入居者のケアに対するあり方を探求しながら、その人と同じ目線で向き合い、明るい笑顔で家族の一員として関わっている。24時間体制でカバーされており、また、こまやかな健康管理は機能訓練が実施されており、利用者や家族等に安心感をもたらしている。母体医療機関の支えや地域資源の活用を図り、地域住民との関係も深く、地域密着型のサービスに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念について、「地域とのふれあいを大切に交流を大切にします」との理念を、職員の意見を集約して作成し、課題は改善している。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティング時に時間をかけて自己評価に取り組んだ。外出の機会を多くしたり、家族会を充実させるなどの取り組みの意見が出て、評価を活かした具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催している。多くの参加者を得て、貴重な意見が出て、防炎カーテンの設置や会議を行事時に開催する案などが出て、早速、敬老会時に会議を開催し、参加者の評価が得られた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談窓口の明記や意見箱の設置のほか、意見を出しやすい関係づくりに努めている。重度化についての意見が出されており、ホームの方針を明確にする取り組みを検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 職員は地域の公民館サロンにボランティア参加をしたり、お年寄り見守り隊の一員として活躍している。また、隣設医療機関を訪れる地域の住民や高齢者の方々との交流、法人開催の敬老会参加、中学生の職場体験受け入れなど、地域との連携に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を考え、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える理念を、職員の意見集約して作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールに掲げ、パンフレットにも明記している。職員は入居者と共に唱和をし、理念を共有しながら日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は地域の公民館サロンにボランティア参加をしたりお年寄り見守り隊の一員として活躍している。また、隣接医療機関を訪れる地域の住民や高齢者との交流、法人開催の敬老会参加、中学生の職場体験受け入れなど、地域との連携に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時に時間をかけて自己評価に取り組んだ。外出の機会を多くしたり、家族会を充実させるなどの取り組みの意見が出て、評価を活かした具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に開催している。多くの参加者を得て、貴重な意見が出ている。防災カーテンの設置や会議を行事時に開催する案などが出て、早速、敬老会時に会議を開催し、参加者の評価が得られた。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者にホームの運営やサービスについて相談しながら、関係作りを積極的に行っている。また、市担当者はホームの行事や会議に参加し、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月次報告をしたり、家族会参加時や来訪時に心身の状況や暮らしぶり、行事予定、職員異動、金銭管理の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の明記や意見箱の設置のほか、意見を出しやすい関係作りに努めている。重度化についての意見が出されており、ホームの方針を明確にする取り組みを検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	このホームに長く勤務している職員が多いため、入居者や家族等との馴染みの関係ができていく。やむを得ない法人内異動の場合は、職員教育など徹底し、異動によるダメージ予防に努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人の職員教育委員会による勉強会やミーティング時に課題を設けて勉強会をしている。また、外部研修は交替で参加し、研修報告を行い共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの職員間の連絡や、相談などの交流をしている。地域のネットワーク作りを今後の課題として、協力してサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望時に本人と家族に面談し、生活状態や思い・不安を十分に聞いている。また、馴染めるようにホームの見学や説明をし、安心して入居できるように取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中で、ぬり絵や民謡・行事食作り等を一緒に行い、一人ひとりの特技を発見したり感謝の言葉や笑顔に励まされながら、生活を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴や心身状態を理解し、本人の言動・表情・傾聴に心がけ、サインを把握している。職員間の情報交換を行い、本人が自由に表現し、自己決定できる環境となっている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向・主治医の意見・職員の気づきや意見を反映した、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、入居者の状態変化や退院後等は、その都度介護計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診やリハビリ送迎・墓参り・美容院送迎・自宅訪問・特別な外出など、柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等が希望しているかかりつけ医の受診を支援し、継続できるように連携を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について、本人や家族等・ケア関係者と連携を取り、意志確認はしているが、ホームとしての明確な指針はこれからである。	○	利用者の重度化等に合わせて、ホームが支援できる方向性を、職員や家族等と共有することが望まれる。
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため、尊厳に対する関わり方について勉強会をしている。入居者のプライバシーを損ねないように、声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その人の思いや生活リズム・身体状況を大切にしながら、本人のペースを大事にし柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好をメニューに取り入れたり、下ごしらえや盛り付け・下膳などを職員と一緒にし、職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調に合わせた支援をしている。入浴順番を職員が工夫して、入居者は好きな時間に入浴を楽しんでいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	民謡や手踊り・ぬり絵・風船バレー・リハビリ体操等、利用者の趣味や特技を發揮できるように支援している。また、散歩や買い物・花壇の手入れなど、気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺にある商店やスーパーに、散歩や買い物に出かけている。また、ドライブをかねて花見等、外出の機会作りに心がけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は施錠せず、職員はプライバシーに配慮しながら見守りし、安全確認に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回災害訓練を昼・夜間想定して行っている。消防分団のホーム内視察も行われており、地域の協力体制も得られている。また、災害時の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量の把握をしている。身体状況に合わせた食事形態の食事を提供している。また、栄養バランスは栄養士の献立にて調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、清潔で換気や温度調節が行き届いている。また、季節行事の装飾など季節を五感で感じながら、家庭的な空間の中で利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや冷蔵庫・ぬいぐるみ・西洋人形・家族写真など、馴染みの物品が持ち込まれている。また、居室には押入れやコタツ等もあり、それぞれ个性的で居心地よい居室作りになっている。		

※  は、重点項目。